

**問** 北宇和高等学校の野球部を強化して、鬼北町の名声を高めようとする施策はあるか。

**答** 北宇和高等学校の生徒たちが学業面や部活動などにおいて活躍してくれることは、町としても大いに応援するところであるが、各部活動の内容や進め方などについて、町行政として意見を申し上げることはいかなるものかと考えている。

高等学校の部活動は教育の延長であることから考えれば、それらは高等学校の方針として取り組むべきことであるので、まずは、具体的な方策等を示し、行政と協議のうえ共同で強化策を支援していくということが重要であると考えている。

#### ◆程内 覚 議員

【まちづくり懇談会について】

**問** 町道水対谷線町道改修工事の要望について

**答** 平成24年12月7日開催された「下大野部落まちづくり懇談会」において、改修工事の要望が出された。要望内容は、狭い急カーブの改修と併せて現道の拡幅だったが、その折に「必要性は認められますので、まずは路線沿いの関係地権者の同意を得てください」とお願いしたところである。

それを受けて、地元から平成27年10月27日に、関係者の承諾をいただいた改良要望書が提出された。財源やその他の事業との優先順位を検討し、現在のところ、平成29年度から31年度まで

の計画で改良事業を実施していく予定としている。

【アルコール工事跡地活用について】

**問** 平成28年度の販売状況について

**答** これまでに66区画中54区画を売却しているが、今年度については数件問い合わせがあるものの、まだ契約には至っていない。

**問** 具体的な土地活用は考えているのか。また、「多目的全天候型スポーツ施設」を整備することはできないか。

**答** 分譲宅地以外の残地については、基本計画では商工業誘致と公共施設の用地として想定しているが、現段階では、具体的にどのような商工業を誘致し、あるいはどのような公共施設を整備するかといったところまでは決定していない状況である。

商工業誘致については、これまでその目的達成のため鋭意取り組んできたが、残念ながら実現に至っていない。今後も、引き続き誘致に向けて積極的に進めていきたいと考えている。

多目的全天候型スポーツ施設の整備については、その建設費用や運営費用の捻出が難しい状況であると考えているが、既存の施設の活用なども視野に入れ、慎重に検討していきたいと考えている。

【高齢化に対する地域公共交通について】

**問** 高齢化率および高齢者の運転免許保持者について

**答** 平成28年4月1日現在の人口は1

0,926人で、このうち65歳以上の高齢者数は4,544人、高齢化率は41.6%である。

また、高齢者の運転免許保持者について、「平成27年交通白書」の「警察署別市町別運転免許保有者数」によると、平成27年12月末で、鬼北町の運転免許保有者数は7,128人である。そのうち、65歳以上は2,470人で、保有率は34.7%である。

**問** 運転免許返納者に対するメリットとなる制度について

**答** 現在、鬼北町ではそのような制度は設けていない。

**問** デマンド交通等の整備について

**答** 平成29年度において、地域公共交通の確保および活性化を推進する基本方針となる「鬼北町地域公共交通網形成計画」策定のための基礎資料を作成し、交通弱者を対象とした公共交通ネットワークの再編等、本町の公共交通のあり方自体を再検討し、地域公共交通の具体的な計画策定を行い、持続可能な地域公共交通網の形成に努め、現在の運行方法やデマンド方式、その他の方式等について検討し、本町の実態に合った地域公共交通網計画の策定を目指したいと考えている。

**問** 通学道の安全性は確認されているか。

**答** 「鬼北町通学路交通安全プログラム」の方針に基づき、各学校の実態に合わせて、教職員や見守り隊が実際に児童とともに通学路を歩き、安全点検

を実施しており、これらの点検で明らかになった対策の必要箇所については、児童に注意喚起するとともに、関係機関に対策を依頼している。

そのほか、児童生徒に対しては、日頃から登下校時に歩き方や道路の横断の仕方などの交通指導を実施している。また、毎月5日と20日および春と秋の交通安全運動期間にも、教職員・PTAによる街頭指導を実施し、通学路の安全確保に努めている。

【町長の三選出馬表明について】

**問** 2期8年の任期最終年度を迎え、再度、町民の安心安全な魅力ある住みよい鬼北町づくりのための決意について

**答** 平成21年3月から今日まで、鬼北町長として、町政のかじ取り役を担わせていた、だいたい3期目は家庭の事情等により出馬せず、平成29年4月6日の任期満了をもって退任することを決意した。

また、まだやり残している課題や、新たに取り組まなければならない施策など多くの問題が山積しているが、これらはいずれも鬼北町の安定と発展のためには必要不可欠であるため、時代の変化に対応しながら鬼北町創生に邁進していた、たく、新進気鋭で思考力と行動力に満ちた若い人材にバトンタッチができればありがたいと思っている。

いづれにしても、残された来年4月6日まで有終の美を飾るべく、全力で職責を完遂することが私の責務であるので、重要案件などが滞ることがないように真摯に取り組むことを誓う。